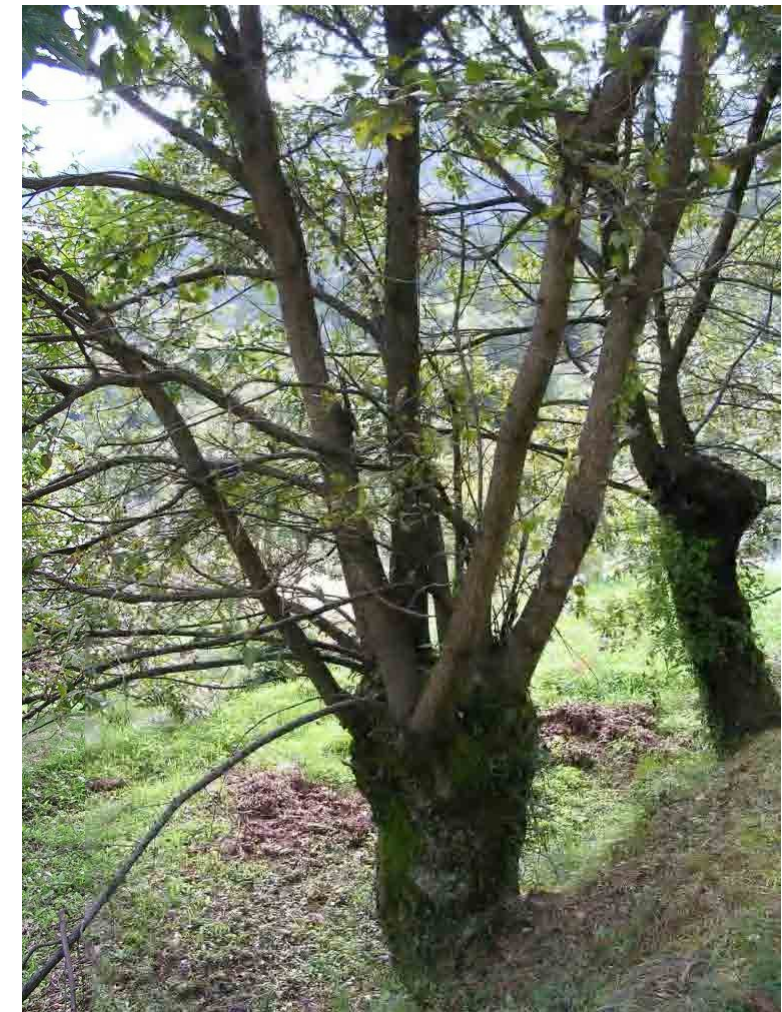
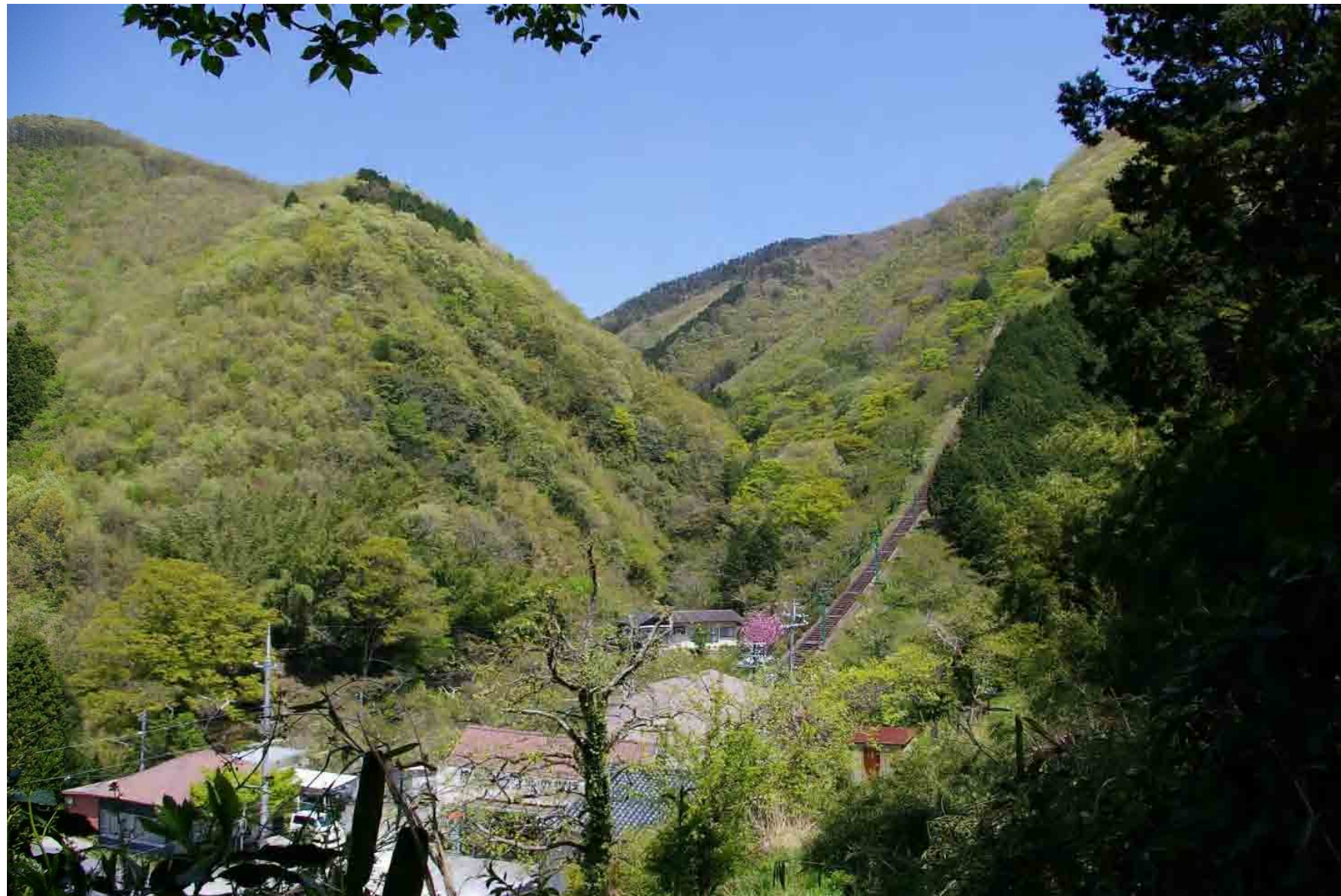


兵庫県南部(北摂地域)里地里山保全再生モデル事業
～地域戦略～



はじめに 「里山と日本人との関わり」

兵庫県立人と自然の博物館館長 岩槻邦男

日本の里山は世界的に見てもユニークで、世界に誇ってもよいものです。「里山」にぴったりと当てはまる英単語はありません。里山は日本独自の人と自然の共生が長い間培ってきたすばらしい環境なのです。

弥生時代以降、日本の国土は「人里」「里山」「奥山」に区分されてきました。人里は森林を伐開してできた農地が中心であり、かつてはアワやヒエなどの雑穀を、後にはイネを栽培してきました。この農地は国土の2割程度を占めていたと考えられています。そして里山は人里のバックヤードともいえる地域で、薪炭をはじめ、人里だけでは足りない分の資源を得る場として使われ、国土の3割程度を占めていました。そして奥山は人の立ち入らない部分であり、国土の約半分を占めていました。

ユネスコが進める「生物圏の保全」においては、保護区の核心部であるコアエリア、緩衝地帯であるバッファゾーン、そして移行帯であるトランジショナル・エリアが区分されています。このような区分は世界自然遺産や国立公園のゾーニングに関する考え方と通じています。まさに弥生時代以降の日本の土地利用はこれとぴったり一致しており、ゾーニングの考え方を先取りしてきたと行うことができるでしょう。京都を描いた「洛中洛外図」を見ると、この時代にはゾーニングが明確であったことがよく分かります。

さて、日本は明治時代以降に西欧に対して「追いつけ追い越せ」という追従の姿勢をとってきました。それ自体は間違いではなかったものの、その弊害によってかつての考え方とのずれが生じてきたことを私は指摘したいと思います。自然に対する概念として「人為人工」がありますが、これは森林を開いて自然を破壊する様を端的に示したものであり、20世紀後半になって使われるようになった新しい概念です。一方、弥生時代の里地開発はこれを自然破壊とはいいません。弥生時代の開発は自然と馴染みながら自然を変えてきた共生の開発なのです。産業革命以降、科学技術の力が自然を圧倒するようになり、破壊という言葉にふさわしい改変をもたらすようになりました。人里に残る祠と鎮守の森は、里に奥山の像を描いたものかもしれません。自然を破壊する一方で、その名残に常に畏敬の念を持ってきたとでもいいでしょうか。日本人は宗教心がないといわれますが、宗教心と宗派心は別のものであると考えています。キリスト教やイスラム教のようにある神に仕える際の心は宗派心であり、日本人は、自然を八百万の神と見てそれに畏敬の念を払うといった宗教心を豊富に持っているのです。



(シンポジウム「里山よ。元気を出してくれ。」
講演より抜粋)

目次

はじめに 「里山と日本人との関わり」(岩槻邦男)

1. 里地里山保全再生モデル事業	1
2. 兵庫県南部(北摂地域)の里地里山	3
2-1. 自然環境	2
2-2. 社会経済的現状	10
2-3. 里地里山の特性と区分	17
3. 兵庫県南部(北摂地域)の里地里山の現状と課題	18
3-1. 日本一の里山、クヌギの生産林の衰退と伝統文化の消滅の危機	18
<コラム>「日本一の里山について」(服部 保)	18
3-2. アカマツ・コナラ林の荒廃、マツ枯れ等の危機	19
3-3. ため池・湿地・棚田の希少種	19
4. 兵庫県南部(北摂地域)の里地里山保全再生に係る基本的な考え方	20
4-1. 北摂地域里地里山保全再生の高次目標	20
4-2. 北摂地域の里山保全のための方向性(タイプ区分)	20
4-3. 3つのタイプ(テーマ)ごとの管理目標	20
5. テーマ別の取り組み事項	21
1) アカマツ・コナラ林の里山の維持管理	22
2) クヌギ林の里山の維持再生	30
3) ため池・湿地・棚田の維持管理	37
4) その他の取組	38
5. 事業進行表	42
6. 北摂地域における総合的取り組み事項	44



1. 里地里山保全再生モデル事業

近年における生物多様性保全の問題は、直接間接を問わず私たち人間の行為によって生物多様性保全上の危機、問題が引き起こされています。2002年に策定された新・生物国家戦略では、生物多様性保全上の危機を、次のとおり「3つの危機」として整理しています。

- 第1の危機：人間活動ないし開発が直接的にもたらす種の減少、絶滅あるいは生態系の破壊、分断、劣化を通じた生息・生育域の縮小消失。
- 第2の危機：生活・生産様式の変化、人口減少など社会経済の変化に伴い、自然に対する人為の働きかけが縮小撤退することによる里地里山等における環境の質の変化、種の減少ないし生息・生育状況の変化
- 第3の危機：近年問題が顕在化するようになった移入種等による生態系の攪乱

これらの3つの危機のうち、第2の危機、つまり里地里山に関する危機は、絶滅危惧種を含む多様な生物の生育・生息環境であり、さらに人間の生産活動・生活の場であり、伝統的な知識や技術が培われ自然と人間の共生関係が維持されてきた場所でもあります。また、様々な価値や権利関係が錯綜する多義的な空間であるため、一律的規制や保護対策では危機的状況を脱することが困難な地域でもあります。

以上の背景を踏まえ、環境省では平成16年6月に里地里山保全再生モデル事業を開始することを発表しました。全国の里地里山について、生態系のタイプ、立地特性等を踏まえて「モデル事業実施地域」を選定しこれらモデル事業実施地域において里地里山保全再生のための事業、地域戦略の策定を行います。

兵庫県南部(北摂地域)は比較的都市に近く、また、ため池などが多く点在し、希少種が生息する地域として、またマツ枯れなどの管理が課題となっている地域として「モデル事業実施地域」のひとつとして選定されました。行政、専門家、住民、NPO等が参加し、里地里山の保全および再生に取り組むための実践的な手法や体制、里地里山の普及啓発・環境学習活動等のあり方について、具体的な検討を進め、地位切線略を策定、実施することを目的としています。そして、これらのモデル的取り組みを全国に発信し、全国各地のさまざまな主体による里地里山保全活動を促進したいと考えます。

里地里山の全国分布

里地里山(二次林や農地を主体とした地域)は国土の約4割を占めています。里地里山はその骨格となる二次林のタイプによって5タイプに分類され、それを基に6ブロックに区分されます。

- ミズナラ林タイプ
- コナラ林タイプ
- アカマツ林タイプ
- シイ・カシ萌芽林タイプ
- その他(シラカンバ等)

シラカンバ二次林などを中心とした里地里山
放置すると、やがて自然林に代わっていく。

ミズナラ二次林を中心とした里地里山
放置すると、やがてブナなどの自然林に代わっていく。

コナラ二次林を中心とした東日本の里地里山
人口が密集していて開発が多く、タケ・ササの繁茂が目立つ。

コナラ二次林を中心とした西日本の里地里山
人口密度が低く、雪のやや少ないところではタケの繁茂が目立つ。

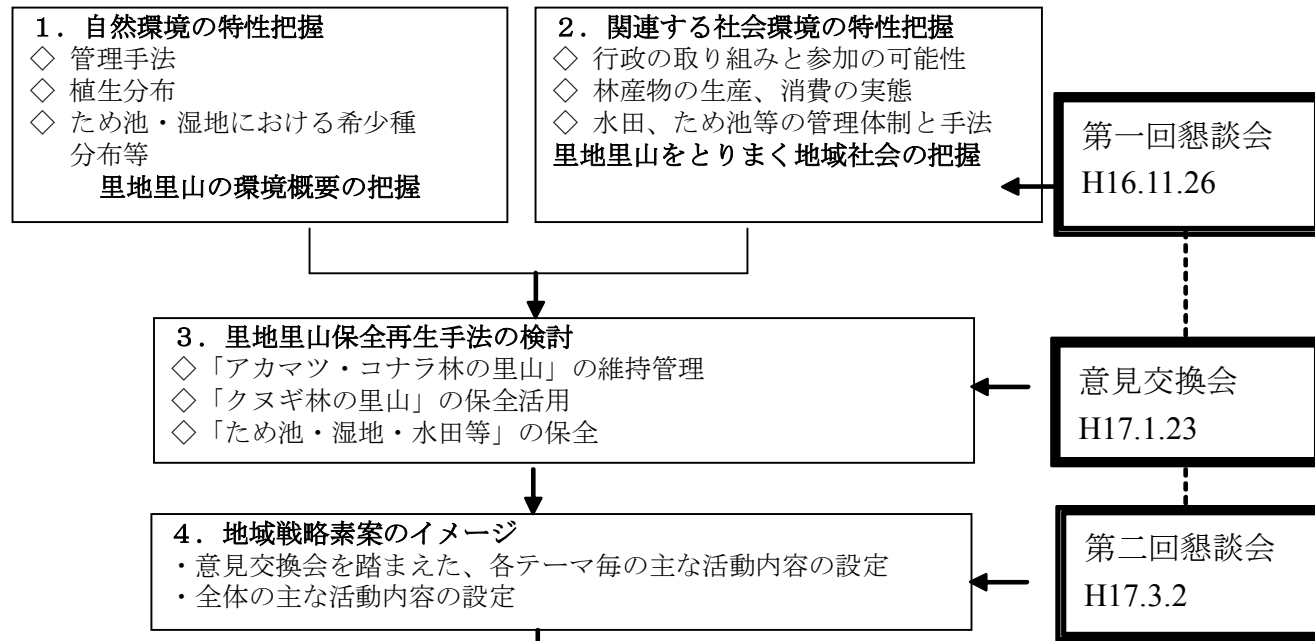
アカマツ二次林を中心とした里地里山
人口が密集しているが、ため池なども多く、希少種も多い。開発やマツ枯れ、タケの繁茂の問題がある。

シイ・カシ萌芽林を中心とした里地里山
タケが繁茂しなければ、やがてシイ・カシの自然林に移行する。

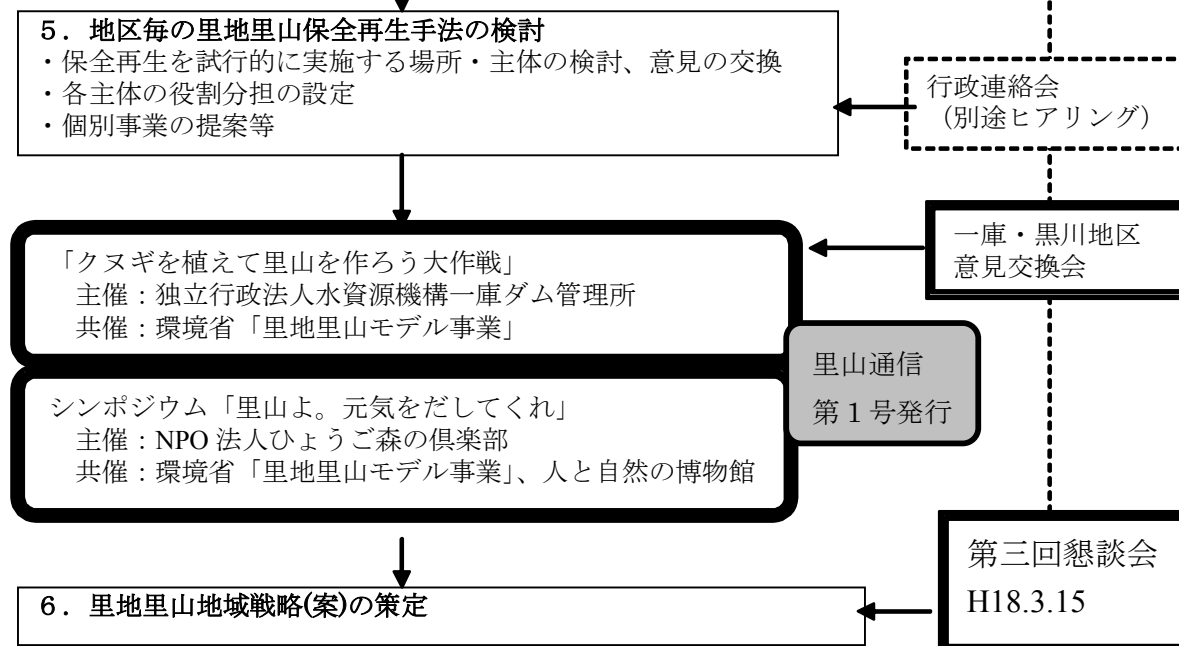
環境省里地里山パンフレットより抜粋

兵庫県南部（北摂地域）モデル事業のこれまでの流れ

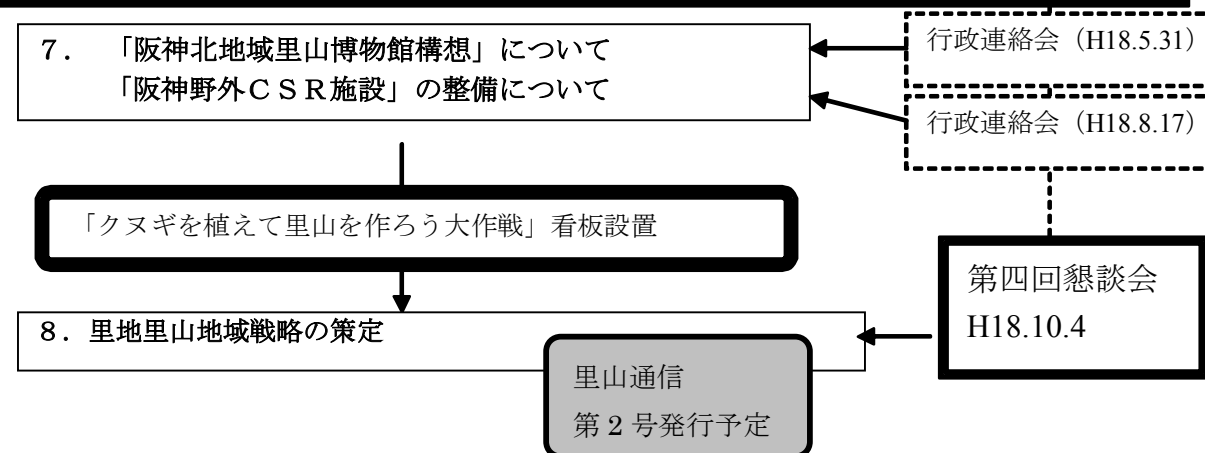
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



兵庫県南部（北摂地域）モデル事業の関係者（H18.3月現在）

- ◆専門委員
 - 兵庫県立人と自然の博物館館長 岩槻邦男
 - 兵庫県立人と自然の博物館自然・環境再生部長 服部保
 - 兵庫県自然保護指導員 足立勲
- ◆地域活動団体（NPO）、地元関係者等（五十音順）
 - 菊炭友の会、川西里山クラブ、櫻守の会、三田里山どんぐりくらぶ、ひとくらクラブ、NPO 法人 ひょうご森の倶楽部、NPO 法人 野生生物を調査研究する会
 - 兵庫県立一庫公園管理事務所、三田市立有馬富士学習センター
 - (独) 水資源機構一庫ダム管理所、池田炭生産者
 - 能勢電鉄株式会社鉄道事業部、三田市上槻瀬地区
 - 三田市大谷地区、宝塚市西谷地区まちづくり協議会
- ◆市町関係
 - 三田市生活環境部 環境課
 - 〃 経済建設部 農業振興課
 - 宝塚市環境経済部 環境政策室環境管理課
 - 川西市市民生活部 生活文化室環境創造課
 - 〃 〃 産業振興室産業労政課
 - 猪名川町環境経済部 農林商工課
- ◆兵庫県関係
 - 兵庫県阪神北県民局 県民生活部 環境担当
 - 〃 〃 〃 環境課
 - 〃 〃 宝塚農林振興事務所林業課
 - 兵庫県農林水産部農林水産局 農村環境課
 - 〃 〃 〃 豊かな森づくり室
 - 〃 県土整備部まちづくり局公園緑地課
 - 兵庫県健康生活部環境局 自然環境保全課
- ◆各省庁
 - 環境省 自然環境局自然環境計画課
 - 環境省 近畿地方環境事務所国立公園・保全整備課
 - 農林水産省 近畿農政局整備部農村整備課
 - 林野庁 森林整備部計画課
 - 国土交通省 都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室
- ◆事務局
 - 財団法人自然環境研究センター
 - 株式会社里と水辺研究所